



INFORMATION

臨床実践の現象学会第5回大会

- ▶日時: 8月10日(土)
- ▶大会長: 家高 洋(東北医科薬科大学)
- ▶会場: 東北医科薬科大学(仙台市青葉区)
- ▶テーマ: 死生の語りの現象学
- ▶特別企画: 大RTD(ラウンドテーブルディスカッション)「死生の語り」田代志門(国立がん研究センター)、金菱清(東北学院大学)、福島裕子(岩手県立大学)／一般演題
- ▶事前参加登録: 5月7日(火)～7月31日(水)
- ※詳細は下記ホームページ参照
- ▶参加費: 事前登録1500円、当日参加2000円
- ▶問い合わせ先:(担当)西尾美里
E-mail: clinical.phenomenology@gmail.com
URL: <http://clinical-phenomenology.com/meeting/>
- ▶大会長より

「臨床実践の現象学会」のこれまで4回の学術大会は、東京と大阪でそれぞれ2回ずつ開催されました。第5回学術大会は、現象学的な研究がより拡がっていくことを願い、初めて仙台で行われます。

本大会のテーマは、「死生の語りの現象学」です。(現象学的研究も含む)質的研究において「語り」は、調査研究の対象であるだけでなく、調査研究のただ中で生み出され、ときとして変化することもあります。また、「語り」の背後には語られていないさまざまな事柄があるでしょう。このような「語り」に対してどのようにアプローチをすればよいのでしょうか。もちろん、この問いに対する答えは1つではないでしょう。本大会では、「語り」へのアプローチに関するさまざまな方向性と可能性を検討し、討議することで、このような「語り」について改めて考え直してみたいと思っています。

メイン企画のラウンドテーブル「死生の語り」では、田代志門先生(国立がん研究センター)、金菱清先生(東北学院大学)をお招きしました。本学会事務局からは福島裕子(岩手県立大学)が登壇します。田代先生は、末期がん患者の経験についての調査研究を行われています。金菱先生は、「東北学院大学震災の記録プロジェクト」を立ち上げ、被災地の人々における「霊性(生と死のはざまの次元)」についてのさまざまな経験をすくい上げようとしています。

関心をもつ多くの方々のご参加をお待ちしております。